

トピックス できごとやニュース

休講特集号 (全5頁)

○休講期間延長！来年4月より開講

14期講座、15期講座は今年度休止、来年4月開始とします（ご連絡済の「6月より開始」を変更）
この第5号は「休講特集」として、末尾に「判断に至った考え方」などQ&Aでまとめています。

巣ごもり便り Stay home! 今回は14期西森さん、花井さんからの便り

明神山に登ろう



案内板です。これを過ぎると鳥居



鳥居の先に広がる「自然の森」を抜けると頂上です。頂上からは360°の大パノラマです。（西森さん）

自粛生活2ヵ月。頑張っています。

こんな時だから、断捨離や掃除をやればいいのですがすぐに挫折。そこで、外に出ることを控える時期ですが、一週間に一回のペースで山登り。高さ237mと低い明神山ですが、360度のパノラマを眺めてストレス解消。目の前に二上山や葛城山、西は世界遺産の古市古墳群やあべのハルカス。東の方は若草山や大和三山(耳成山・畝山・香具山)とぐるり見渡すことができる素敵な山です。

また最近、時代小説にハマリ「大富豪同心」を読んでいます。読みだしたらどのような展開になるのか楽しみで、いつの間にか読書時間が増え、只今22巻制覇を目指し、ゆっくり無理なく過ごしています。

遠目にポコッと見える小さな山が耳成山と香具山



巣ごもりのつれづれに

若い頃から何もせず日がな家で過ごすことはそんなに苦手ではなかったが、こんなに先の見えない日が続くとそうも言っていない。

そんななか、古希を迎えるのを機に年明けから始めた俳句がちょっとした無聊の慰めになっている。動植物や天候、季節など歳時記・自然を題材とすることが多く、当カレッジに通じるものがある。情景を思い浮かべることにより居ながらにして出かけた気分にもなれる。何より安上がり。

テキストや講座で学習することもなく我流でやっているの、季語が抜けたら、川柳もどきになったりと悪戦苦闘するのもまたよし。

（ブランコとすれば良いのをわざわざ「鞆」そしてやたらと難読漢字を好む作者もいたり、亀が泣いたりとなかなか面白い。）

つれづれ思いつくまま書いてきましたが、14期生講座（反省会も）の再開と再会を心待ちしています。ついでに拙句を・・・先の講座「天王寺動物園見学」を題材に

ハルカスに従え獅子の日向ぼこ

（花井さん）



野鳥このごろ

夏鳥がやってき始めました

今回はMKさんより「さえずり」のお話



キビタキ



オオルリ

5月に入ると、すっかり冬鳥の姿は見えなくなります。

渡ってきたばかりの夏鳥や留鳥達の囀りと巣作りが始まります。

鳥達が囀るのは繁殖期間に限られ、オオルリ、キビタキ、クロツグミ、ウグイス等の美声もこの時期しか聴けません。

囀りの行動は繁殖相手を探す**ラブコール**や育雛期間中に家族を守るための**縄張り宣言**といわれていますが、これらの小鳥に托卵するホトトギス、カッコウ、ツツドリには場所を教えることになるのも皮肉です。その育雛をしない**ホトトギス等は、夜間や飛びながらも鳴きますが**、そこまで目立たなくてもという気もします。

鳥達の9割以上は一夫一妻でシジュウカラやメジロは育雛期間だけ囀ることが確認されています。そして少数派である一夫多妻のウグイスやミソサザイ等は大きな声で、いつまでもうるさい程に囀っているのは少しでも多くの子孫を残そうと頑張っているのでしょう。



クロツグミ

囀りが繁殖に必要な行動であるとすれば、囀り行動が見られない残りの多くの野鳥は、どのように相手を見付け、巣を守っているのでしょうか。

編集部

野鳥観察の講座で大阪城公園に。

超望遠カメラを携えたオジサン達がたむろしてます。

その視線の先に**キビタキ**。美しさに感動しました。

野の花このごろ

植物部会の方からのお便り

今週はユリ科の花々



スズラン



アマドコロ



ホウチャクソウ

この時期にはスズラン、アマドコロ、ホウチャクソウ等のユリ科の花が咲き始めます。

スズランはラン科ではなく**ユリ科**で、可憐な花として親しまれていますが、実は花から根まで**全草に有毒物質を含みます**。

一方、**アマドコロ**は名前の通り甘い地下茎を持ち、若芽も山菜として食されます。アマドコロとそっくりな植物に**ナルコユリ**があります。若芽は同様に食べられます。違いのポイントは茎、アマドコロの茎は稜がありザラザラしていますが、ナルコユリの茎は丸くツルツル。(ナルコユリの花期は小一カ月後)

ホウチャクソウは茎の最上端にしか花を付けませんので分かりやすいですが、上記とよく似た若芽には有毒成分を含みますのでご注意ください。山に咲くミヤマナルコユリには茎に稜があり、さらに区別はややこしくなります。(MK)

編集部

5月、六甲山ではチゴユリ(ユリ科)が咲きます。

有馬温泉側の「裏六甲」ルートに多い。

小さく可憐な花で「君ィ、頑張ってますねえ！」

と声をかけたくくなります。(けん)



こんにちは。これから「南大阪・昆虫記」として、昆虫のあれこれをお伝えします。**いよいよ昆虫の本番！**いつも目にする昆虫をはじめ、ナニコレ？という昆虫が紹介できればと思っています。（佃）

アオイトトンボ（イトトンボ科）ここ2、3日（4月下旬）よく見るようになりました。はかなげで風が吹くときしっかり葉っぱにしがみついています。光に当たるとキラキラ光ります。（5cm位）

調べてみるとトンボには多くの科があり、ヤンマ科はギンヤンマ。トンボ科はシオカラトンボ。サナエトンボ科はコオニヤンマ等。



ナナホシテントウムシの雌雄の判断は難しいものが多い。ナナホシテントウムシはお尻の先で見分けられるので比較的判り易いようです。



キアゲハと似ている。違いは翅の付け根あたりの模様がナミアゲハは黒い線。キアゲハは何となく黒っぽい。



オスは翅の先がオレンジ色。メスは黒い。特徴は翅の先が尖っている。（井上さん提供）



ホバリングしているのは全てオス。

ホバリングは威嚇ではなくメスかどうかの確認の為に人には興味がない。オスは針を持たないが、メスには針があり刺すことがある。弱い毒を持っているので刺激しないように。

昆虫部会の紹介 午前中は虫とり網を持ち 茂みの中、無心に網を振るう第2火曜。お昼からは皆でワイワイの同定（種類の確認）「これやで！」「いや、こっちちゃうん？」写真と図鑑をにらめっこ。

つい数年前まで想像もしない我が姿に戸惑いながらも、その小さな命が愛おしくなってしまうたら もう最後！私のお気に入り **キアゲハの芋虫**、紋様の芸術的なこと！そうそう **蟬の羽化も神秘的**過ぎて...

メンバーは、昆虫大好き少年がそのまま大人の男性陣、好奇心のかたまり女性陣。いずれも昆虫愛に溢れた心優しい面々の朗らか部会です。4名の新入部員を迎え29名、活動再開が早く叶いますように...（奎保）

編集部より 竹中光子 中務佐代子 上溝敏子 飯田憲三 kziid@gmail.com 090-6665-3750

○「ひと」「ワンダーワールド」「里山だより」「負けへんで」「一オシ講座」今号ではお休み。

今号より「南大阪・昆虫記」コーナー始めます。昆虫部会の皆様よりの便りです。

○WEEKLY LETTER は月一回発行の **MONTHLY LETTER** に衣替えします。（6月以降）

休講期間が延び、発行期間も長期になります。小所帯の編集部なので月1回発行でお許しください。

特集 なぜ一年間も休講するの？

7つの Q (Question) & A (Answer)

今年度一杯の全面的休講には「長すぎる」とビックリされた方も多いでしょう。

そこで、今回の休講を決断した考え方等についてQ&A方式でお伝えします（文責；編集部）

Q1

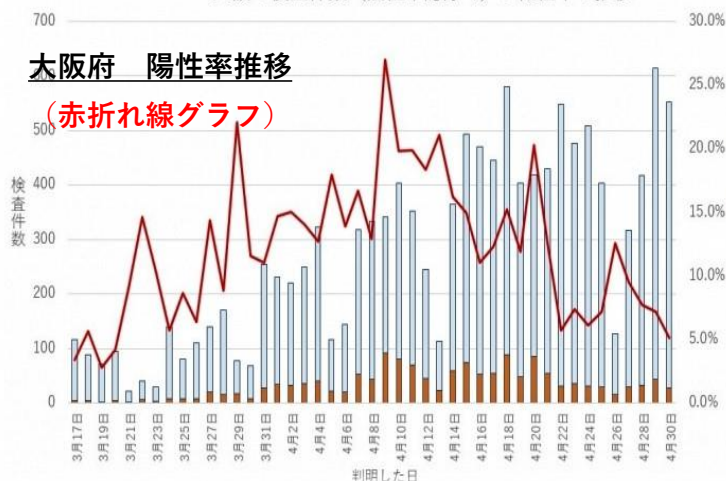
来年4月講座再開とは、**休講期間が長すぎる**と思います。
コロナ感染症の今後をどのように考えているのですか？

新規コロナ感染者数は減り始め、非常事態宣言の効果がある程度出ています。

しかし北海道の例のように、少しでも気を許せば、また感染が増え始めると言われています。

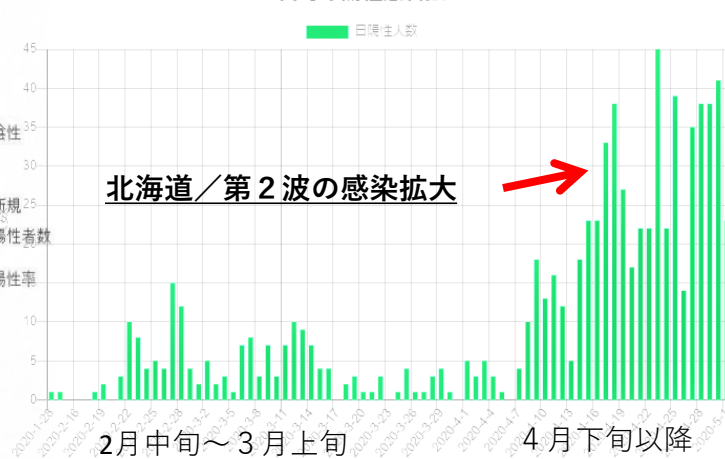
現在の流行の波が収まった後も、社会経済活動の再開につれ**第2波第3波と幾度かやってくる**可能性があると考えています。

大阪の検査件数（陰性確認除く）と陽性率の推移



山中伸弥教授 COVID19 HPより

日毎の陽性患者数



北海道庁 総合政策部HPより

Q2

つまり、**コロナリスクは夏以降も続く**と予測しているのですか？

ワクチンや治療薬の開発・普及には相当の時間がかかり、現在はその見通しすら立っていません。
日本の感染者はまだ少数で**国民は免疫のない方が殆ど**なので、**ウィルスが存在する限りリスクは続く**と思います。

また、国内でウィルスを抑え込めても、世界的にみれば感染拡大が続く国々も多く、入国制限を緩和する段階で再び**外国からのウィルス流入リスク**にさらされる恐れもあります。

今月末で非常事態宣言が解除された後でも、**コロナリスクは長期的に継続する**と考えています。

Q3

報道では **学校などは6月からの授業再開**を予定する市区町村が多く、企業活動を含め社会経済活動全般が順次再開されるようです。

自然カレッジでは用心し過ぎではないですか？

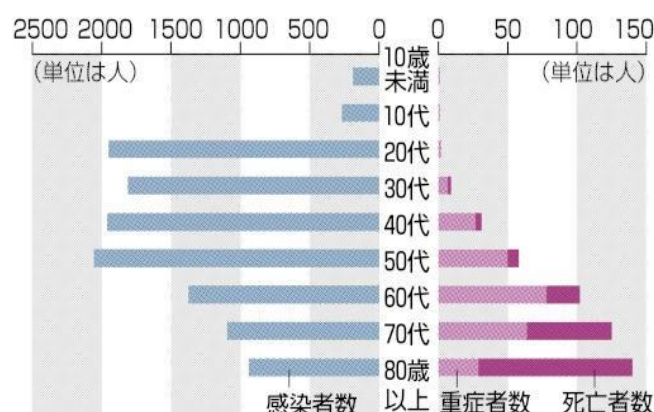
私たち**シニア層**は感染すれば重症化するリスクが**非常に高い**とされており、**際立って高度の警戒意識が必要だ**と考えています。

また、児童・学生は一定期限内に学業を習得しなければならない、勤労者や商工業者は生計を維持するため働かなくてはならない、など切迫した事情があります。

その点、シニア層は相対的に時間的余裕があり、講座開始も「**十分安心できる状況まで待つ**」ことができるし、待つべきではないかと思います。

新型コロナウイルス感染症の年齢層別動向

※厚生労働省調べ、4月22日時点、クルーズ船乗船者、チャーター機帰国者、年代非公表などは含まない



Q4

シニアの講座でも他の団体では下期10月から開講予定のところが多いと聞きます。
なぜ、自然カレッジだけ開講が遅れるのですか？

自然カレッジの講座の特性が大きく影響しています。

カレッジでは1年目、2年目とも各1年間のカリキュラムを組んでいます。

10月からの開講では講座期間が半減し、多くの講座を省略せざるを得なくなります。

例えば、2年目講座では「芦生の森」「西はりま天文台」など3回の1泊研修も予定していますが、下期であっても1泊研修自体を実施できる状況かどうか不明な上、半年に3回はまず困難です。

良質な講座編成を維持するためには十分な講座期間が必要であり「講座期間は最低限10か月は欲しい」が私たちの率直な気持ちです。

更に、カレッジの場合、世間一般の講座に比べ感染リスク予防が難しい点も問題です。

講座は近畿一円に出かけ「午前中教室で受講。午後はフィールドで学習」の形で自然を観察します。このうち、受講する教室は毎回異なる会場利用となるので、一律的な感染予防策が取り難い。加えて交通機関も慣れないルートを利用するので移動時の感染リスクも無視できません。

講座生、講師、スタッフの安全のために、感染リスクが十分に減る時期を待つ必要があります。

Q5

最近、「諸外国同様に学校の新学期を9月始まりにしてはどうか」との議論が聞かれます。これが実現したらどうなりますか？

学校の学期制や企業の事業年度制が変わるような基本的社会システムの大変化（パラダイムシフト）が起これば、私たちの講座年度の変更も検討課題となるでしょう。

自然カレッジでは講座の行先、講座内容、講師、講義会場など一つ一つ手作りで準備しています。変化の方向性が確定した時期にもよりますが（準備が間に合う時期か否か）、コロナの感染リスクも見極めながら講座年度のあり方や休講期間も再検討することとなります。

Q6

それにしても来年3月までの休講は長すぎます。

下期少し自由に動けるようになった頃には、何か活動する機会はないのですか。

部会活動への「体験参加」など工夫できるかと思っています。

部会は11部会あり、多くが感染リスクの少ない野外での活動のみで構成されています。

移動時の交通機関での感染リスクが低減した段階で、部会活動は再開される見込みです。

なお、部会は講座を修了した会員が同好の人たちで集まり、自主的に運営する活動です。

11の部会	植 物	マップ (定点観察)	野 鳥
昆 虫	いのちの 営み	石ころ (岩石、地層)	里山保全
写 真	吟 行 (俳 句)	山歩き	ウォーキン グ

部会世話役と協議しながら、参加を認めて頂ける部会には、14期15期の皆様が「体験参加」できるよう検討を始めたいと考えています。

Q7

講座料や退会希望の取り扱いはどうなりますか

今期の講座料は来年度の講座料としてシフトさせていただきたくご了承のほどお願いします。

ご都合により来年4月からの受講が困難な場合、退会のお申し出は「14期生＝来年2月末まで。

15期生＝来年1月末まで」に各期担当スタッフまでお願いいたします。

期限内であればお預かりしている講座料は全額返金させていただきます。

なお、15期生の期限が1か月早いのは、複数の退会ご希望があった場合に、私どもでは2月より補充募集を開始させていただくためです。（現在15期生は定員丁度の25名在籍）